

富士見の立場川鉄橋とトンネル群

「全国的に貴重な遺産」

愛知のグループが視察

旧国鉄中央西線の廃線となった軌道、トンネル群を「日本近代化への産業遺産」として保存活動する愛知県春日井市の住民グループ「NPO法人

・愛岐トンネル群保存再生委員会」が17日、富士見町富里、乙事にある旧国鉄中央東線の廃線、立場川鉄橋とトンネル群を視察した。参加者は「全国的にも珍しい貴重な文化的産業遺産だ」として、地元の保存活動を強く呼び掛けた。(川合弘人)

同委員会は2006年、春日井市と岐阜県多治見市の間にある約40年間放置されたままの軌道と13基のトンネル群を発見。1966年に新線開業に伴い廃線となった8基の保存活動を開始。トンネル群を買い取るナショナルトラスト募金も行い、一部は整備して一般公開した。廃線と自然

の共生を訴えている。

同町への視察は、全国にある鉄道遺産の現状を知ること、愛岐の活動に生かそうと、

第6回研修会として行った。

同町への視察は、全国にある鉄道遺産の現状を知ること、愛岐の活動に生かそうと、



姥沢トンネルを視察する愛岐トンネル群保存再生委員会のメンバー

表)がホスト役を務め、町総務課管財係の許可を得てトンネルの内部に入った。

委員会の村上真善副理事長(59)ら約30人は、諏訪鉄道クラブ樋口公男事務局長(59)▽茅野市塚原Ⅱの案内で、1903(明治36)年建設の立場川鉄橋を見た後、現在も残るトンネル3カ所のうち、姥沢トンネル(約100m)の中に足を踏み入れた。だが、中央付近で土砂崩落があり、入り口付近から中を見るだけにとどめた。

視察後の意見交換会では、参加者から「ほぼ完全な形で現存する明治時代の鉄橋は他に類を見ない。全国的にも貴重な文化遺産であることを地元の人には知ってほしい」などの驚きの声相次いだ。

村上さんは「安曇野市は篠ノ井線の廃線を観光資源として活用しているが、富士見町の廃線の方が文化的にも重要だ。改修すれば観光利用できると話した。

地域に対しては「関心のある人を全国から招き、住民レベルの関心を高めることから始めては」とアドバイス。樋口さんは「諏訪が一つになり産業遺産を発信し、観光客を呼び込むまちづくりをした」と心えた。